



第1学年 「比例と反比例」 森田 大輝 教諭
 比例の学びと反比例の学びのプロセスを統一し、ノート見開き1ページの左側に比例の学びの履歴を残し、比例の学びと比較しながら、右側に反比例の学びを残す工夫を行う等、「比例の学びのプロセスを反比例の学びに生かす」授業づくりに数学科がチームとして取り組んだ提案でした。

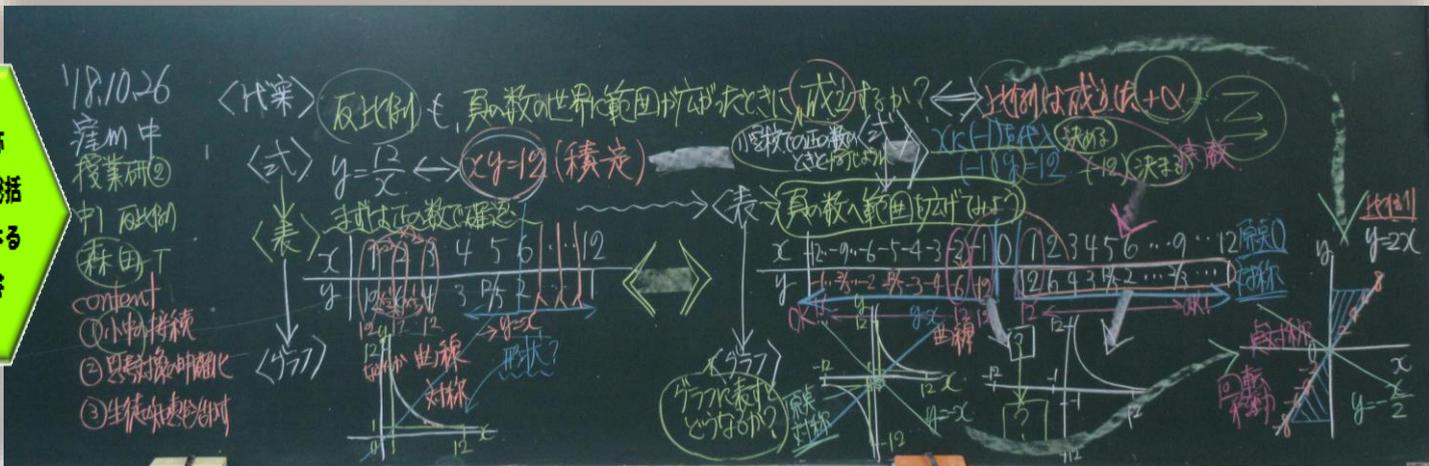
「比例の学びが反比例の学びに生かされていたか」「小と中の学習内容の違いが意識された授業であったか」を論点としたグループ協議では、生徒の姿を通し、「着目させる点を焦点化したことで生徒たちもよく考えていた」「違いだけでなく、同じ点を押さえることも理解の深まりにつながる」等の意見が交流されました。



反比例の学びから見つけたことで比例の扉を叩く！

中学校では、小学校での学びを確認しながら、それぞれの学びを一つにつなげること。生徒に関数のもっているバランス、美しさ、規則性等に関心をもたせる指導をしていくこと。そして、反比例の学びから見つけたことで比例の扉を叩き、既習事項を振り返ること。これらを丁寧に行うことで、生徒は新たな物事の解釈ができるようになり、いろいろな視点で物事が見えるようになること。また、生徒が「反比例のグラフは原点に対称になっている」と発言したとき、その価値に気付けるよう、教師は深い教材研究をする必要があること等についてご指導いただきました。

齊藤一弥
 学力向上総括
 専門官による
 指導板書



授業者の声

これまでは、グラフのかき方の指導に偏った授業となっていたが、齊藤先生の講話を聴き、①1時間の授業の中で表・式・グラフを関連付けること、②グラフの形状から見える「対称性」を感じられるようにすること、③反比例で学んだことを使って比例に戻り捉え直すことに気を付けて単元を構成していく必要があると気付かされました。

参会者の声

小中の接続の仕方がいかに大切か。また思考対象の明確化のポイントを学ぶことができた。グラフのよさ（対称性）に気付ける生徒の育成をめざしていきたいと思う。そのためには、教師がカリキュラムをもう一度見直し、教材研究を深めていく必要がある。【鳶ヶ池中 卜部真二教諭】

